

読書活動だより.67

編集・発行 静岡県読書推進運動協議会

静岡市駿河区谷田53-1
静岡県立中央図書館内
TEL 054-262-1246

紙つなげ！

静岡県読書推進運動協議会理事
静岡県書店商業組合常務理事
株式会社吉見書店代表取締役
吉見 光太郎

出版物の販売金額は年々減少し、特に雑誌の落ち込みは激しく、ついに書籍販売が雑誌販売を上回る状況になっています。以前、雑誌は書籍より年間にして1,000億円程販売金額で上回っている年もありましたが、ついに逆転現象になりました。雑誌から得られる情報は、インターネット、スマホアプリを中心に様々なところから取れるようになってきたからだと思います。今後もこの状況は加速し、かといって書籍の販売金額も伸びていませんので、書店数はどんどん減少していくことが予想されます。

とはいえ暗いニュースばかりではなく、書籍の中でも児童書の販売金額はここ数年伸びてきました。特に絵本が好調で、新人や個性派作家の活躍、子どもや孫へのプレゼント需要、教育的投資の増加、新規出版社の参入などがその背景として挙げられています。静岡県も「読書県しずおか」実現に向けて子ども読書活動推進計画を着実に実行してきた成果が出ていると思います。静岡県は人口減

少が問題となっていますが、子どもが育った場所の本屋さん楽しく通い、大きくなり親となってまた育った場所の本屋さん子どもと一緒に楽しく通うということが私たち書店人の願いでもあります。

大人になっても本との出会いで様々な発見や救われることがあるはずです。私はビジネス書を読むことが多いですが、昨今では日本製紙石巻工場の東日本震災時の状況が綴られた「紙つなげ！」と出会い、人のため、社会のために何ができるかということ深く考えさせられました。この本を読んだ後、新幹線に乗った時に斜め後ろの乗客同士の喧嘩に遭遇しましたが、私はとっさに足が動いて止めに入りました。今までなら見て見ぬふりが車掌さん呼びに行くかしかできなかったはずです。

子どもから大人まで、これからも本の素晴らしさに出会えるよう、また「読書県しずおか」を更に浸透できるようにこれからも読書推進事業に邁進していく所存です。

《内容紹介（もくじ）》

- ◎巻頭言…………… 1
静岡県読書推進運動協議会理事 吉見 光太郎
- ◎平成28年度 優良読書グループ紹介…………… 2～3
★(公社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)
ひろみ文庫(富士市)
- ★静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)
三島市立図書館音訳ボランティアグループ(三島市)

- 富士朗読の会 ピーターパン(富士市)
- おはなしくれよん(静岡市)
- おはなしパレット(牧之原市)
- みずのわ(袋井市)
- ◎静岡県読み聞かせネットワーク全体講演会報告… 3
- ◎静岡県図書館大会・子どもの読書活動分科会報告… 4
- ◎推薦図書…………… 4

平成28年度 優良読書グループ紹介

(公社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)

【ひろみ文庫(富士市)】

ひろみ文庫は1980年に開設して以来、子どもと本を結ぶためのお手伝いを続けてきました。蔵書数3,000冊、週に1度、メンバーが貸し出し作業をしています。

開設当時のメンバーは、孫育てや家族の介護などに時間を割かれ、文庫を離れることになりましたが、幸い若い世代に引き継がれ、現在17~20名が活動を担っています。

文庫の1年は、春、地区の広見小学校の新1年生歓迎会から始まります。開設当時からの伝統行事のご縁が、朝の読み聞かせにつながり、週1度、朝の読書支援を行っています。1日に2学年、8~9クラスずつ絵本を読んだり、お話を語ったり、本は楽しいものとのメッセージを伝え続けています。文庫独自の催事には、お楽しみ会(夏休み、春休みなど)や6年生お別れ会(3月)などがあります。

また、児童館との共催で、児童館祭り、クリスマス会、新春かるた会などの行事も行います。広見地区や、富士市との関わりでは、広見地区福祉フェスティバルや文化祭への協力、富士市の子育て支援事業「ブックスタート」おはなし会を2会場(月1回)で行っています。富士市子どもの本を学ぶ連絡会と、図書館が共催する、「本は友だち子ども祭り」という催事にも参加し、大型紙芝居や影絵を演じます。

ひろみ文庫があることで、地域の子どもたちが書物による喜びを享受し、人として誇り高く育ててほしい。それが、私たちの願いです。
(代表 山田 千津子)



静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)

【三島市立図書館音訳ボランティアグループ(三島市)】

私たちグループは本をそのまま読むことが困難な方のために、録音図書を作成を目的として三島市立図書館の新館開館時に結成、現在、20年目を迎え35名で活動しています。

活動は全体の研修会を年10回開催し、個々で調査、録音、編集をしています。作成した総数は延べ163タイトルになります。

現在はデジタル録音したデジター図書を図書館へ寄贈し、視覚障害者情報総合ネットワーク(サピエ)や国立国会図書館へ登録をして全国の視覚障がい等の方々にご利用いただいています。

これからも活動を続け、より多くの本を障がいがある方々へ届けたいと思っています。

(代表 佐藤 由紀子)



【富士朗読の会 ピーターパン(富士市)】

平成13年に朗読ボランティア養成講座を受講した有志により、富士市吉原まちづくりセンターを拠点に活動する、おはなしグループとして発足し、基礎講座終了後も、朗読指導講師に月1回の指導を依頼し15年になります。これは会員の技術・知識の向上と、大きな自信になっております。中でも朗読劇は会の持ち味となっています。現在、会員数は27名、「ことばと心」を伝えることを大切に活動していますが、吉原地区のみならず、出前おはなし会として、市内の保育園・介護施設に出掛けたり、大人のための朗読会も年2回開いております。今回の図書館大会で表彰いただいたことは、会員の意識を高め、大きな励みになりました。今後の活動に活かしていきたいです。

(代表 藤澤 清子)



【おはなしくれよん(静岡市)】

おはなしくれよんは、平成17年に静岡女子高校の普通科保育コースの生徒の校外でも保育に関係する活動をしたいという強い希望から、6名のサークル活動としてスタートしました。生徒たちが参加した他の読み聞かせ活動の見学や講習会において、実際の読み聞かせ活動以外にも沢山の学びがあり、現在に引き継がれています。また、現在保育士として活躍している卒業生の原点となっています。他学科の中でも活動に参加したいという生徒が多数おり、現在はボランティア部として活動しています。育てることを学んでいる生徒たちですが、地域の皆様の温かいご支援に感謝し、今後も継続していきたいと思っています。

(静岡女子高等学校ボランティア部顧問 今戸 伴子)



【おはなしパレット(牧之原市)】

「おはなしパレット」は2008年に結成され、現在、11人で活動しています。自分の子どもが小学校を卒業した後も、引き続き多くの子ども達におはなしを届けたいというメンバーが集まり、グループが誕生しました。おはなし会では手作りパネルシアターや紙芝居、手遊びを取り入れるなど、バリエーション溢れるプログラムの構成に力を入れています。小学校では、牧之原市の偉人である鈴木梅太郎氏を取り上げ、子ども達に地域に対する理解を少しでも深めてもらうような取り組みも行っています。他のボランティア団体や市立図書館との連携も視野に入れながら、メンバー全員が常に高い意識を持って現在も幅広い活動に挑戦しています。

(代表 植田 由美子)



【みずのわ(袋井市)】

「みずのわ」は昭和57(1982)年に旧袋井市立図書館で発足した「水の環の会」を前身に平成21年4月に発足した、音訳図書・雑誌を制作するボランティアグループで、今年で活動8年目になります。会員は40代から70代の袋井市在住者を中心とした男女18名で、昨年度の講習後には新しい会員が加入しました。毎月定例会を実施し、会員間で気軽に情報交換し合いながら録音・制作技術の向上を図っているほか、利用者の利便性の向上を意識して活動しています。今年度からは図書館での「対面朗読サービス」への協力を開始しました。これからも図書館と連携しながら、読書に困難のある方々に情報を届けることができるよう音訳活動を続けていきたいと思っています。

(事務局 袋井市立袋井図書館)



静岡県読み聞かせネットワーク全体講演会報告

演 題：「赤羽末吉の絵本」

講 師：赤羽 茂 乃 氏

日 時：平成28年11月6日(日)13:30~15:30

会 場：静岡県立中央図書館 講堂

参加数：190名

講師の赤羽茂乃氏は末吉の三男に嫁ぎ、末吉の近くで共に暮らし、日常生活に触れ、最も身近な読者として11年間を過ごしました。末吉の他界後、約7,000点の原画・スケッチ・資料等の整理に携わり、以降研究を続け、現在は赤羽末吉の伝記を執筆中です。

講演は、末吉が養子となった辛い嫌な時代、本を貪り読んだ中学時代の話から始まり、満州やモンゴルでの体験を通じて、その土地の文化への関心が人一倍強

くなったことなど、赤羽末吉の人生にそって教えてくだいました。

赤羽氏は時にユーモアを交えて家族ならではの話をしてくださり、和やかな雰囲気での講演会でした。



静岡県図書館大会・子どもの読書活動分科会報告

平成28年11月7日(月)グランシップにて、第24回静岡県図書館大会が行われました。

今年は、子どもの読書活動にお詳しい脇明子先生(ノートルダム清心女子大学名誉教授・岡山子どもの本の会代表)に「読む力が未来をひらくー子どもに本を手渡すために大人ができることー」をテーマにお話しいただきました。

子どもの読書活動において「絵本の読み聞かせ」は多いけれども、「物語の読み聞かせ」が少ない現状があります。「物語の読み聞かせ」は「話しことば」ではなく「書きことば」につながります。人類を発展させてきた「書きことば」は、個人が人生で向かい合う問題に対処する力を生みだします。現代の若者が字を書けるのに手紙が苦手、作文は書けない、というのは「書きことば」が足りない証拠です。物語は、主人公への感情移入、不快感情の共感、場面理解などを通して、情報を整理する思考力、イメージを変換する力、記憶力などを獲得できます。同じ読書でもエッセイやハウツー本などは知識中心であり、感情移入や不快感情の共有等を通して自己認識能力を高められないのです。自己認識能力があれば、メディア依存社会という嵐の海で、子どもたちがメディアの深刻な状況を生きていけるのです。

以上から、「絵本の読み聞かせ」から「物語の読み聞かせ」へ移ってほしい、とご提案下さいました。脇明子先生は200冊強のリストをご用意くださいました。分科会終了後のアンケートでは「リスト」がとても好評で、もう1度、読書活動を見直したい、との声が上がりました。



静岡県読書推進運動協議会推薦図書

ーシニア世代向けー

- 『**『老いの世も目線を変えれば面白い』**
吉永みち子／著(海竜社 2016.5)
- 『**『男はつらいよ』の幸福論
寅さんが僕らに教えてくれたこと』**
名越康文／著(日経BP社 2016.2)
- 『**『質問 老いることはイヤですか?』**
落合恵子／著(朝日新聞出版 2016.4)
- 『**『人生は一本の線』**
篠田桃紅／著(幻冬舎 2016.4)
- 『**『日本人の心、伝えます』**
千 玄室／著(幻冬舎 2016.2)
- 『**『真夜中は稚魚の世界
The wonder world of Juvenile fish』**
坂上治郎／著(エムピー・ジェー 2016.5)

ーヤング世代向けー

- 『**『今日が人生最後の日だと思って
生きなさい』**
小澤竹俊／著(アスコム 2016.1)
- 『**『コンビニ人間』**
村田沙耶香／著(文藝春秋 2016.7)
- 『**『平澤興一日一言』**
平澤 興／著(致知出版 2016.6)
- 『**『みつばち高校生』**
森山あみ／著(サンクチュアリ出版2016.1)
- 『**『蜜蜂と遠雷』**
恩田 陸／著(幻冬社 2016.9)
- 『**『未到 奇跡の一年』**
岡崎慎司／著(ベストセラーズ 2016.6)